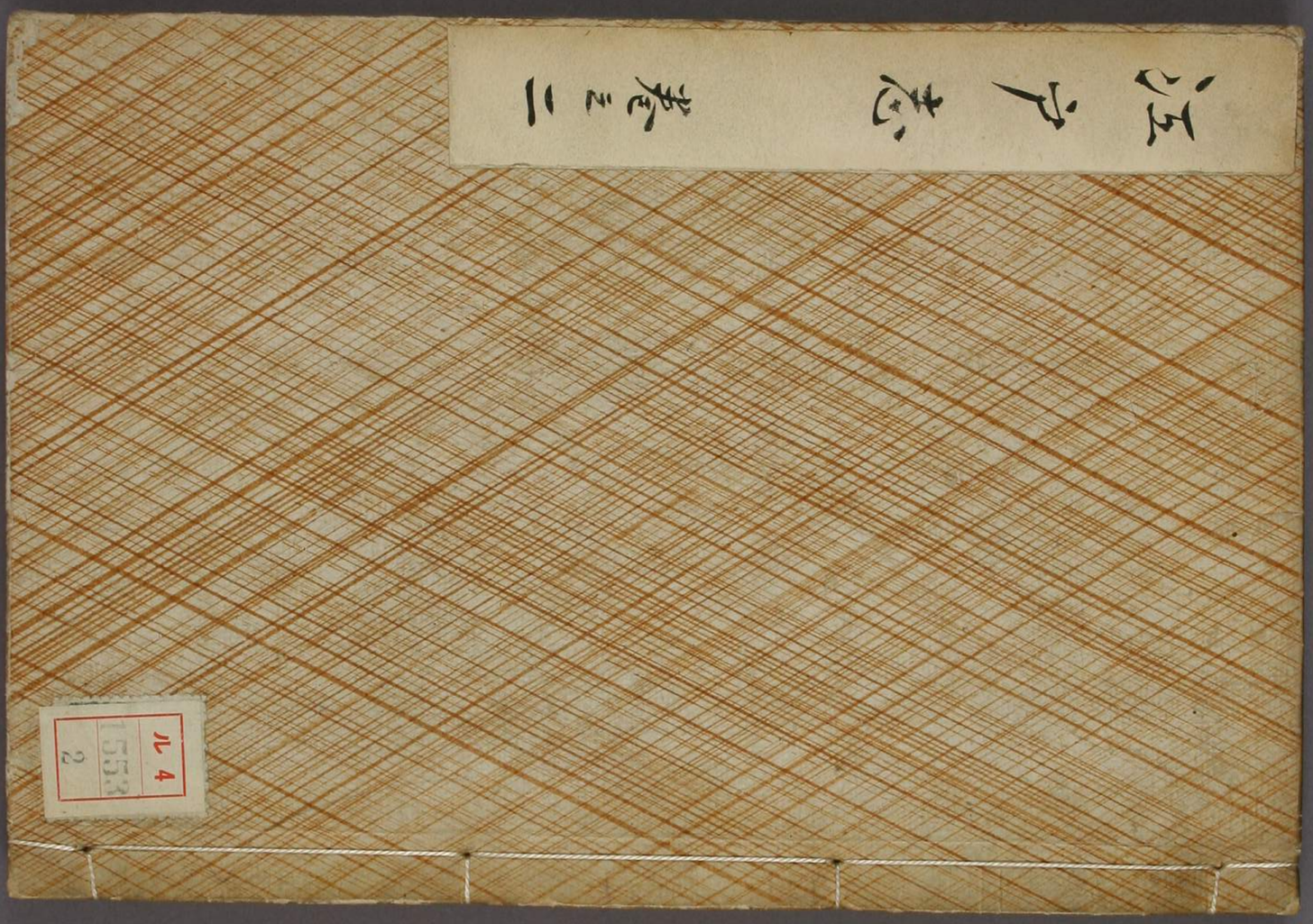


ル 4
552
2

儿 84
1853
2

新編江戸志 巻之貳上目錄

一 浅草 島越 日本堤 花川戸 待乳山
一 今戸
一 橋場 標茅原 浅茅原
一 新島越 織多村
一 山谷

一小塚原

一千住

東武 懐山子輯著

浅草

求塚雑記云往古此辺武蔵野よりつゞきて生へて野中なまでの草なみ生茂り一所ゆへ浅草茅原といひて所名なるつゝきもの地名なるべし

定説通國記云浅草といふ所にて所々とまりて庭に植まるる花もなくて

冬ごもりまつ人草のうら枯に秋の面をぬる花の中

京鑑に曰若宮營作事有其沙汰而訖鎌倉中一可然無工匠

仍可尼造郡武藏國浅草大工字郷司之旨被下御書於彼所沙汰
人等中昌覺孝行之ナルヘキ由被浅草ニ令古ヘ良工ヲ令造
之市中ノ地ヲ与ル

○第六天神社　浅草御門外　神主　鎌木出羽守

神社略記曰海雲社天神第六兩神面足尊賢根尊也是則
五行ニ配ス時ニ土德の御神也　当社北ハ大倉前ニ鎮坐在シガ
享保四年火災の後今ノ所ニ遷坐シ奉ル祭礼ハ六月五日也
元ハ江戸鹿子曰開基ヨリ八百年ニ及ブ之ヲ考ニ近代年中
ニ営ル也

○篠塚稲荷社

同所

紫ノ上ニ三ツ巴ノ紋所ハ天ヨリ降ル所ニ篠塚大明神ト
書付ケ所ノ天竺ノ人ノ思ヒ為ル地ニ稲荷ヲ祭ル也
江戸砂子ニ新田義貞の臣篠塚伊賀守守泉ト号ル
ガ故主の形勢のため稲荷を勧請ス也
今按ニ太平記ニ四國世田城合戦ニ篠塚伊賀守大音
揚ケ島山庄司ト重忠ニ代系武蔵國ニ生長ス社頭ニ
一人賞ス遇篠塚伊賀ニ向フ敵を
事和ヘ退ケリ　陸奥島ノ海ノ由を地ノ行ス
武州ニ来ル本国ニ此地ニ隠キ住ケ来ル
○銀杏八幡　浅草福井町　神主　清田冊次郎

祭神應神天皇社傳に云ふ社人王七十代後冷泉院御宇永承
六年源頼義公八幡を勧請し奥州阿部頼時征伐の
下向の時奥州海道より武蔵草川の辺に陣を張り時川上より
銀杏二本流れ来る代家自下座上に流れて突立て
朝敵退治勝利を得び枝葉繁栄べし太刀一振を木
の下に埋む八幡を祭り賊徒を亡ぼし
上流の折の下に銀杏八幡の下に成就の祥を
ぬ此銀杏枝葉栄へ大木成る 埼道の一里塚
又是を八幡場と唱ふ
今社の太刀神宝に有

古度の立合の社地の所古く御宮の家有きと則越
家より宮社勧請の時銀杏の枝葉
長七尺三尺ありしを除地と成て其跡社地
なる故島脚八幡と書し誤り也 社傳に銀杏の幡
末社 天満宮 神明 稲荷

○祇園社 天王町 別当上野末 真鏡山法現院寺

神社考に云素戔嗚尊高日牛頭天王又曰武塔天神 天竺日金比
羅神 同書に祇園臨時祭者六月十五日也 崇 天治元年六月始
求塚社記云往古より此所に在て誰人の勧請なるを知らず 四和
元年庚辰七百年に及ぶと云 神体仏人来り是を作る云

[illegible]千束村[illegible]寄[illegible]て今按[illegible]村上天皇御宇
天暦年中の勅建歟可[illegible]

○十王堂　同所

永享記に云堂[illegible]長十八尺[illegible]建立中[illegible]地蔵[illegible]共石[illegible]文
[illegible]建立[illegible]焼失の度毎造営の[illegible]
貞和補　延宝三年乙卯二月十五日御日記云諸草[illegible]五町十王
堂[illegible]文八年二月四日[illegible]火焼失依[illegible]再建[illegible]別当大円
寺度々[illegible]金三百両被下[illegible]旨則寺社奉行申渡[illegible]

○閻魔堂　同所　上野末　瑞光山華厳院長延寺
寺伝慈覚大師開基往古[illegible]下野国[illegible]焼亡[illegible]

[illegible]石碑[illegible]青石[illegible]長[illegible]人[illegible]上[illegible]
文政十年[illegible]文字[illegible]
[illegible]紫[illegible]建立の時石碑[illegible]

本尊　閻魔王　長一丈六尺　運慶作
三途川　老婆　長六尺　本尊同大同作
化馬地蔵　聖徳太子作
花山観世音　花山法皇作
閻魔大王[illegible]地花[illegible]聖徳太子の御作[illegible]往古
熊野那智山[illegible]或時[illegible]戸川の末[illegible]夜毎[illegible]光明を放つ人々
[illegible]異[illegible]思[illegible]其比当寺[illegible]住僧夫[illegible]善を勧[illegible]戸川

[illegible]を得慶長年中 神職[illegible]妻者 仏法を渇仰せ[illegible]が
[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]神馬[illegible]と書つくるとなし馬
[illegible]を以て鬣に[illegible]付け[illegible]程[illegible]塔の大
[illegible]に[illegible]馬果て[illegible]入寺内[illegible]馬[illegible]光
[illegible]地[illegible]の[illegible]帯[illegible]是より仏法[illegible]
[illegible]を[illegible]地[illegible]

花山観世音　　別当花蔵院一代傳燈大阿闍梨亮山記

抑[illegible]人皇五十五代花山法皇[illegible]観音を[illegible]帰依[illegible]
[illegible]費[illegible]品並[illegible]仏[illegible]大悲の大[illegible]尼経を[illegible]
其[illegible]経を以て観音[illegible]の[illegible]を[illegible]仏眼

[illegible]作[illegible]眼供養し導師として法皇自ら肩[illegible]
第一記伊国那賀郡の[illegible]義の[illegible]の道[illegible]
順礼[illegible]是別[illegible]行者[illegible]仏の始[illegible]吾国順礼[illegible]
最初[illegible]星霜押移り花山院内大臣[illegible]家[illegible]仏来[illegible]中此
東殿山へ移らせ給ふ又[illegible]故有て[illegible]院付属[illegible]

○鳥越神社　元鳥越[illegible]　神[illegible]　鏑木土佐守
別当真言長楽寺

神社略記に曰社説云当社天児屋根命也と昔大社[illegible]社地
長廣[illegible]正保二年[illegible]用地[illegible]比[illegible]其替地山谷[illegible]被下[illegible]
彼所[illegible]新鳥越と号[illegible]祭礼[illegible]月九日[illegible]隔年也と云

江戸城子云祭礼　天児屋根命　日本武尊　二柱ノ
又平親王ノ霊ヲ祭ルト云テ　鎮座ノ年ヲ存ス
○甚内橋　一名猿ノ橋　鳥越ノ神ハ先キ
耳底記ニ云寛文年中向坂甚内ト云フ盗人ノ頭ノ大力ノ剣術者
ヲ以テ捕ラレシヲ免シ遂ニ此甚内ヲ捕ル所ニ死刑ニ行ル最期ニ我死テ疫病ヲ病ム我ヲ忘ル勿レ忽チ急キ
江戸城ニ云何ヲ云ヒシカ疫ヲ煩フ者多シ
ヲ云ヒシ所ヘ流シ遣ル記ス
里俗云疫病ニ死ヲ免ルル為ニ柳枝盡度ヲ柳ノ上ス

流シ遣ル所ニ疫病平癒ス也
宗機曲国記ニ云城ノ里ニ小祠ニ柳ヲ植ル
ヲ以テ家ノ門ニ急ギ日ニ当ル所ニ柳ヲ植ル里
○猿屋町　ヲ城ノ先キ
里俗云昔時ニ多ク猿ヲ飼フ故ニ此名内柳ヲ猿
ヲ柳ニ云ヒ此所ニ多ク猿ヲ飼フ故ニ猿屋ト云フ大雨ノ時ハ
四付ク　水ツカル多シ　天正十八庚寅年八月
江戸ニ初テ馬ノ痛ヲ付ケ江戸馬ノ疫病ヲ療ス人
ハ玉ノ死出ノ杖ニ猿ヲ舞セ　江戸馬ノ痛快ヲ療ス
今ニ平ニ江戸庭ニ多ク目ヲ付ケ例シ今ニ

月十の所是所をを目を頂戴まつる

○鳥越橋　天王丁にのこる　一名地獄ぶし

是は云伝ふ越刑罪人也　行人ハ狩人と

道を是のまつ　扨ハ地獄ぶしとなけるぶし

○御藏　御藏の川うすくこれなりまして迫れ所ふ

○櫻森稲荷社　所名　おさ上野宋　福衆院

勧請年歴をしらず　法花講一の内に四社何とも

○八幡神社　所名　社元二百五石　真言雄徳山神宮寺大護院

略縁起に云ハ　社石像ハ八幡ハ　長比所代神　たゝ仏像　弟子

所案教授　所陣　豊所坊を足連ら　所越軍と

の密法を仰　奉り数度の御利軍　遂ハ雄徳山と度　御社案内

御代に御信心の　元禄五年武州と　瓦塔を八幡　ことをなるよう

御当地安穏のため　御堂に於て　所山阿闍梨の　社地をもつ　則ち

当社御建立　今に　毎月十　御机献上れ　ことを

高野事略云　奥山弁三地應　其勢　附法の弟　の遠

を立て　奥心寺の　住職とする　帝に　駿府　伯庚　五年　登

山に山の事を　法花を　奉れ

十二月　應　其を　南部内山寺　大峯　越　山伏

山伏　土民　の一揆を　退治　の仰を　蒙ること　馳向い

蒙く降伏　明年四月　所職を　賜ると　山　山の僧侶を　物

其ときは御陣に馳参　神祖ときをせられて仏法江戸ばかり
〜し寺地をたまはり駿府にたり〜文珠院の坊舎を引移り常に
御参詣の侍ること五年に一度登山〜と山の事を沙汰ありし
元のめ〜とこと

護摩堂　本尊　五大尊明王　運慶作

○極寺　同所　塔上寺末　池中山盈満院西覚寺

開山　観智国師　塔頭　塔相院　宝寿院

本尊阿弥陀　恵心作

寺伝にいふ　其の〜境内に大木の極あり依て他し名付くいつの
比の山伏一人多年とて来り極をとふ其心任さりて翌朝に大木

なり〜程過て遠の社系山に成木なりしを知ることなり

○黒船町　其の〜黒船破船の時船の見次所に掲ケおう
き〜地せうぞ

○御厩河岸の渡　御馬の渡し小幸所へ渡る所
其の〜さまに御厩なり〜加の名地地名考に来華渡共用ゆ
兼華に厩　南部詩に兼華渡に倚龍廊

○早生年天社　黒船町　神主　曽根外記

稲荷社　熊野社　右三坐同社

○宮戸森　稲荷社　三新町　別当富山方代賢宝幢院

社伝云淡草二社稲荷の丹一社　西宮稲荷社　別当社〜〜

淺草観音より以前の鎮座にて甚の古跡也宮戸川宮戸橋
淺草の古跡也

○飯綱権現　宮戸橋社内にあり

神体は誰人の作と云事を知らず　眼玉の大天狗と小天狗と
文学上人の作也　往古より当社今の西方の地にあり淺草観世
音開帳の時火防の祈祷は其度毎に此飯綱権現にて行ひ
今は宮戸橋稲荷の社内にあり　求聞記に見る

○諏訪社　寺子　別当　観善院

神社略記に所祭同信州　梅　信濃国諏訪大明神大物
主神　要高志　河沼姫所祭一男健御名方神也云々

○清五稲荷社　別当　妙行院

紫の一本と云小山太郎行重信たる小太郎と戰ふ事を式稲荷
事に祈願くに妻已稲荷の像下に祀る当社を出す上総清
五つの名にて今式稲荷社を東厳山の宮司星野氏の持也式
宮司と云て土の一元和の比御草創時の子孫にして妻帯なり
名所記に云弘法大師回国の時水桶をいくつ発せし水を乞
ふ則水をすくめて老女の云常所に水なし遠くの所より汲まゝ
ふ大師の色をもし独鈷を以て地伏うのち即ち忽清水湧出
主所に大師稲荷を勧請す今也浅草清五稲荷と云
沼田の云清五東厳山の西の麓にて今式社地

を祈願せしに当所天の三宮社を同時に所に移すべきの由
求法雑記云社伝に曰当社は第五年中弘法大師武州へ
参詣夢に依て拝殿所の如意宝珠を神体として安置
也是所より掘出す所の珠を尊とし今に中興
第八所千手観音也是近世年中谷中感應寺の持
法華経観音菩薩を改宗の時上野東叡山へ移
を東叡山の法度元田中松兼信の依て預り守護
富田氏に委し元和の比浅草寺の孫の由に依田中
氏より此社を新に別当寺に成し社を田中松泉坊と
別当に始行院也田中氏は東叡山宮司也

○三島社　浅草稲荷の西　堀田備後守屋敷近所　西蓮院村
社伝云当社往古上野藤原坂に元禄の比此地に移す也
神社略説云一宮記に大山祇命也改唐敦章日出峯
帝師宇庚成出現とかくれ給ふ故に当社祭神也
又曰神社考に聖武天平五年三島明神現と云
○駒形堂　浅草川辺
江戸砂子云朱雀院帝宇天慶五年安倍宇平公雅建立
本尊馬頭観音也依て諸乗を祈る馬を造り納む堂
の中にうちたてゝ世俗駒形堂と云ふ
川岸に碑銘有

奉殺生戒

武藏之州淺草之川邊出平源近之海大悲薩埵現像無
跡洋々如在昭々而著其為靈境而已尚矣然恣事鉤漁
夭傷收獲寃苦之慘不勝哀愍睡臭之穢固可厭惡伏
惟靈剎數羅回祿益以大悲為此所不安也幸遇今時丕
洪運仁慧四海深重物命之礼崇三宝勞興寺宇於是去
歲闔寺堂舍悉治補葺楠如新成因之制令嚴戒殺生
乃以南自諏訪北聖天岸十町範計為界喝唱盛矛好生之
大德種福之生業一在手斯人主天恩意足仰而望喜院之觀
心可從而知區々愚衷有餘乃為銘曰

維斯心　即是三千　以我則亦　以觀則凡
鱗介異類　好意同然　詎忍殘殺　不知哀憐
嘗生嗜味　速禍反怨　思報於後　思成於海
文明遇時　慈悲如天　獵器作禁
魚鼈無處　豈但物命　因茲得延
元祿六歲昭陽作噩春三月武州豐島郡金竜山淺草寺
住持擁僧正宣存撰

○鎌倉浦　勢州東の前
まつ濱成ゝ云人のまつ鎌を敷しよりの名なりと江戸砂
ゆゝ記

の並木町

里俗云いつく土手に松の並木を植つる観音堂一目に見へ下り松の並木の下田の面に住景あり[illegible]いつの比か[illegible]町建つゝあり云

○蓋深川

江戸橋より西北つの方廣道東の方小蓋を云ふ也

○花方の渡　竹町の渡と云也花川戸山の麓也

可成花云江戸吸戸花戸今戸花川戸を地名多し

戸石[illegible]の名多し

○古石橋花　竹下つゝ[illegible]の辺所

里俗云鎌倉の時代政清道献の石橋焼を[illegible]

[illegible]

或説云今[illegible]地形石橋花と不[illegible]

[illegible]

○金龍山浅草寺傳法院　寺領五百石　上野末

諸社一覧云昔武蔵国豊島郡宮戸川者今之浅草川也　漁舟之所泊也此故漁家鱗差于北南以雖慶于宮戸川辺有只者

三人曰桧垂曰濱成曰竹成三人者出師氏也真中知己濱成曰

竹成素以無鉤為常采推古天皇三十六年戊子三月十八日

朝天霄三子携網出掉小舟逝宮戸川中擲網于海中

三子峯綱不得免忽得観音像三子大驚合掌礼拝為希有
之思矣中男卒後子孫建三社今之三所権現是也云々
傳記曰鄂明天皇御宇正月十八日観音堂爵攸之寝ニ帳て
鳥有ニ乃ち時ニ見ル火煙の中ニ飛出る人ニ是を尋ニ
見ル像現ニて曰昔此地ハ年代積て殺生の所也乳母ハ生を焼捨
ひ清浄の美地となるべしと敬ハ故へ国務の要なり
岩徳天皇大化元年勝海上人破壊の遺宮を再び建つ則当寺
の開山なり
朱雀院天暦五年房州の刺史安房守公雅帝命に応し
時武州宮戸川辺米子林の下ニ出る浅草寺ニ於て当国の大守
米たゝ多の神を祈り当国の大守と称号を賜ふ実事下向
浅草寺ニ於て掉匹の力を尽ひて土木の功を成ス観音堂を再
興ス高重を引立ス輪花を造設ス五層の塔を建て新ニ
鳥鐘を鋳る
後朱雀院長久二年辛巳十月廿日大地震動ス仏閣悉く顛
倒ス永承六年寂円阿闍梨観音堂を建てり
白河院美暦三年己未十二月四日神火ありて仏堂悉く焼亡ス
此時観音復本飛移り
近衛院御宇左馬頭源義朝当寺ニ詣て観音飛移り所の後
の上ニ観音堂を建つ

江戸ノ城ヲ云田舎の時飛移ル丈ケ捷ヲ以テ新ニ觀音ヲ
造立シ丈ケ像の畫像ニ源田ニ御政清ヲ以テ書付ケ
ヲ以テ内陣ニ安置シ云シ
慶川院兼倉慶長三年戊寅四月廿五日武蔵国従五位下・叙ス
武州ヲ移ス常ニ觀音ヲ信仰ス
六条院仁安三年戊子五月廿日用命法印觀音堂ヲ建ツ
後白河院治承四年庚子八月廿七日源朝臣朝綱ヲ
遣ハシテ義田三千ヲ寄ス
頼朝院兼冬三年壬申五月義子二男和州武州ヲ死書ス
治承ヲ改メ養和元年辛酉ノ秋日壇の觀音像一躯日光の鐘器寄

信陽寺ヶ端ヲ新造ス
四度三年十月廿五日信大輔觀音堂ヲ修復ス
此年是聖り勸進帳ヲ以テ再ビ堂宇ヲ建ツ寛永三年庚子
三月十日ヲ以テ成ル
後醍醐天皇建武三年中將軍源ノ氏公ノ為ニ勅願
ヲ新ニ書ヲ以テ新ニ献ル四度ヲ元亨七年辛酉二月廿六日
武州対合戦の時義田ヲ大ニ
後円融院永和四年戊午十月ニ神火ヲ以テ堂宇ヲ焼
失ヲ在ヲ再ビの変九度ヲ慶安元年庚申三月十日
定源上人勸進帳ヲ以テ同年五月一日ヲ以テ慶安年中ニ再切ス

天文四年八月九日定上北条氏綱再興ス 志善院ヲ以テ
別当ト ス 先ヲ志善院ト云フ 伊毋三所ノ宮ヲ 寄附シ
ケレ ト 来ヲ以テ 当寺ノ名ヲ 来ル伊毋老山ト称ス
ヨリテ 相続ス
元和年中 宗宇 破壊ニ依テ 再興ス 氏守ノ 寄附 大道寺駿河
ノ子孫 ナリ
寛永年中 法華堂 四院ヲ 建立シテ 二十二坊 ヲ置キ
本堂 南向 軒 観音堂 大明福潭郡 託宣堂
山門 乳頂嶽寺 四月七月 各十日 往来中 貴賤人
風雨祈願 乳金祝山 山ヘ上リテ 見ル
三五夜 海市 ノ事

此ノ和尚 寛文四年丁巳 四月九日 四院ヲ 建立シ 寺ヲ
輪蔵 五重塔 此ノ 安倍宗平公 建立ノ所也
鐘楼 鐘銘 至徳四年 方ニ 九月 永六年 迄 三百九十年 及
隨身門 俗名 門ノ 又 天大臣 ト 不豊岩 戸 掃部 戸
神体 ナリ
時ノ鐘 鐘銘 元禄十年 次 壬申八月 到 当宜 ヲ 并 ス
隨身ノ 二ツ 揺 ニ 海 ヲ 観 ル ヲ 侍 姫命 ノ 神体 也
勢州 ヨリ 帝 ヲ 流 来リ 不 故 ニ 芳像 ニ 蛭 売 抱 附 ス
故ニ 利生 又他 美門 ヲ 遠 ヲ
ヲ 比ヲ 帝 ヲ 年 巻 ヲ 巨 ヲ 宮 ヲ 求 深

龍池にいはく武州川越仙波元中の御ときよ観音堂有り
往古洪水の時武蔵守殿荒川に流れて後武州宮戸川
にて網にて引上げ浅草観世音は是なり
川越は今も観音堂有り中興なし之本尊を失ひしを
川越は駒形といふ所にゆくに情なしも駒形の名有りとぞ
何ぶよし記れなきと見ゆ

貞雄云浅草観音堂は寛永十九年壬午二月十九日焼失
東照宮御家康公御前殿也より御宮御堂の建立仰付
され其後観音堂を建立成就の陽に門て不動を安置
今は氏家の嫡葵御紋ありて外してつきたり御宮の旧地は今の

浅草の社ありのうしろまで垣を結びありし人に譲らせ
御宮は台徳公の御代元和四年御建立なり寛永十九年二月十九日
観音堂焼亡のとき多災氏の宮譲されたり
又いはく故に御宮は知楽院より貞享年中台命にて謹慎
へ退去して後東叡山に属し　伝法院と号す是を江戸城中に元禄
年中ときの常に語りたり
貞享元年乙丑八月廿七日御日記に浅草智楽院了紅葉山に観音
御宮はよりは放火出ては大猷院御同様に仰付寺社奉行に怪
由望ありて宮は御宮を遷しまゐらせ　知楽院養育
仰付けられ日光御門跡へ上納せしむ同年十二月十七日観

音地中ニ立ル日光ノ門孫ノ第常紅葉山ノ御本ハ遠ニ見ル作
付之

神明社　清島社　熊野社　并ニ天社

旗竿集云元和年此所ニ御建立ヲ宮殿ノ所紅葉山
御造ル之鎮ヘ清島ヲ勧請ス社ノ前ノ石ノ玉ノ樹ハ昔
御建ノ時ノ石也一ツ宮ノ内ニ記ス

溜慶堂　地ノ大里石像　孔雀茶屋作

御供五井　ヒノ角ノ地ノ下ニ有

元和年ヨリ堀ヲ掘リ井也　東西ノ御供ノ也為覚
為後ノ人ノ　紫雲社ノ下ニ有

三本柏　八幡宮ニ當ル本市ノ内ニ有
江戸名所云八幡宮ノ前ノ柏ノ樹ハ此ノ時ノ陣ノ
ヲ立ノ時ノ柏ノ樹ノ枝ヲ挿ス枝ヲ立ル仕
自然ト江戸ノ廟ノ内ノ大木ニ云寛保年中ニ枯ル可惜
ノ事ナレ誰ノ人ノ為ノ者ノ事ノ有ル
八幡宮ノ枝ヲ挿ス　枝ヲ生ル之也不審
如ノ人ノ云ハ一ツ樹ノ枝ノ数ノ樹ノ数ノ
ヲ一日樹ノ刻ノ死ル一説ニ山ノ
小町梅　小町石像
ムラサキノ一本云本ノ根ノ中ニ石像ヲ中ニ

ゆゑ傳へしかど今は世に思ひて姫梅と云けり是なり
山崎と云し石塔ハ知恩院へ移せしなり

千本桜

元文の初め遊郭より是を植しを植ける遊婦の名なれ
て是は梅に残りし也多く枝折く折る者なり

船松　三社権現社前

荒沢不動　延宝二年中より爰に立ぬ

聖天　長谷他氏　弘法大師作　留守庵につき

寛保二年壬戌八月朔日の風雨に付たを立る中程より折る

小豆八木目石　無名稲荷の藪に有しを土にうもれを年久しく

無名稲荷社　弥吾て寄付なり

貞雄補 慶安三年丹後国宮津郡にて一ほ山にて越前
の大主三日三狩の御ゆくに渡辺無名兵左衛門といふ射手大将
たり即山にわけ入りて狩の明るを待し所に老翁一人夫婦を
おかしき男女を連れ忽然と顕れて申しけるは我は
宗徳が中稲荷也是なるは宗玄とて弟子也是人は宗夫とて
此所にて我此山に住て九百年に成りて我らは凡人の目に
見えざる身なれども此度我ら眷属来りたるを越さぬる
いかなるあまた狩の日に落いて憂き目に逢ふるを歎く
御身の情を以て我らが子孫助けまゐらせておかせて給く候矣

の方薩摩人なりと云へり安たエつは情行甚しく落ち行が
祈願を以てみけんと白き星をつくの一夫をつくりて
助く度一ツと星を祈りて立ち去れり彼山の麓みな
こ白き星の行くを今日まで絶えず朝夕拝まこ白き
星の行くを拝む事を数十年を経て来れり
陽光て江戸に来り自宅に帰て冊を作り
宗旨宗意を立て号く毋左三つの情高き人なれ
ば江戸に慈き徳を施すを誇義一繁栄の花を咲せ
年一神位を四海に広せ世乱れ出さんとする所の者後
年一即二八年の兆候

未の一神を支配し年行の中一二表の名神なる者
時自宅に年行也人を見しるなり未の一神
名年を掛ける口論上敬ふ未社の神を要一刻く
敬を御郷を宗玄九やの名山事三四彼の所人をけたを
ちなれば国大きに外外彼者ものを強一たをきり
人と立ち様に加ちを潔く自ら出て我家庭の如
と狂気一角口出も神宮山伏をものみを加持を
毒を駆ち無を逃を無たち成来り出て中ト立去るべ
と云色々近四方を早速安産つを結一祈りける
不思議や今日也ち仕孫を神人下世に退てるを

つの祈願を掛つる事なれば、我れ是冊校正宝言也以等所
情あれ子孫名誉のものなれば、父宗門中は此他
来る者、[illegible]仏[illegible]竹寿の祈願をなすべき事に打掛せ一切加
斯洲[illegible]所に既に元祝をなす者一人安をつたなる也保
是程願を上たる者百一免一と立ち玉ひ一切行をなす者
こまのそんぎしと行しかば速に行者一人新しく中
浅草観音に詣で、寺社一刹を世界に唐あれ一せ
ども恋ちの孤なる花寺の失なる安をつい寺中の知者
院を以て知識院へ達一宗の地と寺院を建一宗を観い
再び安をつのごとく来り再び安の法恩祈をうるは一つの

願ひ、惜しと稲荷の社八幡を此処に移りの仏の下
ことに仮四八膳をなす安を[illegible]て願みる所新一角比之光
文武年戊寅六月、古移り者て四十八膳をなす人寄れ
を後り、此寺を[illegible]稲荷大明神や安をつを即ち
此処一中と名を改め彼の自銀の所人を此鳥居を建
成就し、上[illegible]仏[illegible]を[illegible]
無為一中一日蓮宗門大いなる社の西の傍に碑を日蓮
宗門門徒の文字を安をつ豊臣の時を一つ碑を
長谷山寺院を也依て寺院を建る迄石稲荷神使しけり
安をつ[illegible]

宗安寺 月を眺めける死の跡をとゞめし心を

さえとも浮世の雲の果なきにしてもうき名も見き月こそのこれ

山本院一中日類と号す 寺は二勝寺なりしが一中峡

法性院妙了日教 一中妻 清浄院妙理日建 ホ

押付候

西谷稲荷社 山の腋常山地主の神

鎮守甚名し観音堂也 裁主より以前の社なり

末社五社 万才イナリ 同本イナリ 荒神なり 西宮大神宮 今一社

老女弁天 大仏東 此所大仏山といふ

慈覚大師作といふ 一名 銭洗弁天といふ

舞仏茶屋 或曰御福茶屋又二十軒茶屋とも云けし

倭名女の髪掛巻に清水より此茶屋より祢よし 御福の

茶屋といつしか号の茶屋といふ

久米仙人の石像 大仏こまの跡

耳塚記に云昔青山王眼といふ人の弟子にて強勇の者也

此像今此所に観音池内にあり

武江に此像は悪女の肖像也其言男女の中をあしくと云て

手を書し縄を張とあるよりまゝ此神の名あり

真按云久米の仙人あり 顔は騎せし子の大納山安置

古き仙なり

志づか御前の長刀

貞維輔 歓喜院しうしろ手有る者のおもひの上と古くより

掛りけり来歴は未だ又猿人の伸しと云ふよし傳へられ

狩野の絵馬 奉重角七郎に方より

狩野古法眼元信の筆なりと云伝ふ其の猿猴に此馬放ちて

名画の作ものを燕ありし 左甚五郎を書おくてより

そのまま也江戸根津の御前見ゆ古く危しまり云侍ふ一年

狩野休真氏絵馬を見て云ふ宗家古法眼と有けれ狩野

玉楽なるべしと云ふ玉楽は小田原北条家の画師なりしは其も

ありなんか

真筆云ふとも狩野永徳法眼に君郷に絵を書しても古法

眼に絵かれしと云ふ亦左甚五郎つくりしとあたりしと云

おそらくは浅人たりしかし左甚五郎は宗家にて来られ猪

御明ありて能く見えしかども年々に志有る人の持

ししを書付無之その所

左甚五郎 伏見人 寛永十一甲戌年四月廿八日死 六十一

左宗心 元禄十五壬午年二月十五日死 七十六

左勝政 京宇出川寺町住 享保十二年五月十三日死

左利勝五つ

左半才

左庄之助

左嘉之助

此絵馬古くより人の賞美せしと云て既に寛永年中歌書
堂面様のすと本おかしと南と云者叶て不名画の筆跡失せ
子をなげき火煙の内より助け出しとて手印を知来
阿彌陀仏霊験なりて世世と世名を称さんとて
絵馬のふちに寛永九年壬申二月十九日実誠の時本おかし
と南出しと記さるて今と毎年

南谷　坊主　東側

鹿島社　知光院

秋葉社　正福院

子安弁天　牛頭天王　円乗院

左手の方に一つ宮作り立て立て

千体地蔵　天府社　寿命院

蔵王　社　身代地蔵　出世大里　長寿院

疱瘡守稲荷

六地蔵　五番目　但堅像五十二新本像　正知院

同所　西側

天照大神宮　神体雨宮　寺

松尾社　宝地蔵　日音院

歓智院

百観音
文殊菩薩
石尊社
釈迦堂　文殊地蔵菩薩　仁王
金剛院
松尊院
実相院
梅園院

[illegible]

東中谷　北側

勢至堂
霊府
三曼荼羅堂　若一王子宮　地蔵堂　天神
金剛院
喫茶院
法華院

[illegible]

甘露王の名号なり是即上あるき変なりて年月の加高を金竜
山海の寺に曼荼羅寺と名付けり彼寺より祈願まの形て
施川氏に曼荼羅を与へ富麻曼荼羅智光曼荼羅
清面曼荼羅也此三曼荼羅を寺号として正代寺日課
百万遍修行の道場なり

蛭ヶ池弁財天

宗祇田園記に武里村にあり石狭と云へる所にあり
如を居初けるに中比の事なりや夫婦さまらひ住き
容色大のことなる一人の父母娘を連れ来りて居るき
今出むて彼の石の洞に入りて交会の風情を

るとし侍りて幕をとり表門をとりて折をとりてかの父母
枕のあるうに立ちて夜衣裳以下の物をとりて一生を送り侍きに去
程なく娘ひとり男子けるなり世の中にかくふぎの業をして父母法共を悪敬に陥し
て永劫泥洹せるものかなるべきに先祖に於ては悔て詫ん
父母を判ぬきて見ると思ひ所なるゆて
男のかくに出来てうの石に腰をぞ掛いつもよりくに心得て
頭を打ちきりいそき物をとらんと引かきて衣を行の
て見えを人ひとり也住く男ひとりよりくに見きへ娘也

[illegible]
やうに数回して度々の悪業を懺悔懺悔いまの姫の
苦提を悔て弔ひ作りて
つゝしみの打ち敷きて石枕 さゝそ あるをひるまく
当所の寺号は[illegible]と云て
なき玉天仏うてまし〳〵けるとか
抜て此石の枕の記或本の本江戸藩より江戸城へ出る
と云て記と云大同小異なれ共国国記に古き書
也是を陸奥記或人の云ふ田国記と云て宗祇と云
所聖徳陸奥道見法記の記を道見の所撰多可

と云ふ書にて左の如く宗祇方角抄に宗祇家集と
国風記の書に見えたれ共道見法記を
[illegible]国国記の初に文明十八年六月上旬と云
道見に完形の比なれ共代書にて書為ぬ
幸名連 金仏所阿
姫の比の寺院幸名也
亀の宮 海の内より上り亀を乗る也一の塚記の境内さ
槐 観世音花い稲荷来る由 田所氏
専寺氏
高寺氏 当神に対直に構え其側裏の木 任完に竹つゝ 拾遺 末裏と云
竹つの寺例 演成の支塔と云

弟子伝　同所　武成の末裔なるべし

毎年祭礼の時三社の神輿を守護奉り祭礼

昔より喜兵衛事精進なり　節分の夕べ観音堂大豆まき

三度この石柱の中段に棚をつりきたりて大豆の札をまきもち

まきたる観音の縁起物の事也　所蔵の中立の中

毎年四月一日ちまきに於て是を出し　事毒消の中立まきみの

柳出る也

○一の権現　俗にいう人参　別名　題松院

薬師堂に不浄観音水中より出現と時初て中所と尊者を建て薬

を供養とあり　あるべきもの一名は語りてあるべし　嘆秀

○境内の庄鍋袋用減草餅　浅草海苔　柳枝　ふ茶

酒中花　浮人形

○神馬　山の西の方に行者沖馬像あり　神馬　駿馬のふ

じけを用い来りて世に名高きよし　載せ

○三社権現　観音堂に東

摂津浪成武成の三人の兄弟を祀る　祭礼三月十日　隔年　観

音参りに立て　拝みまつり

江戸東京名所大全に云　当社　寛永年中宮殿を造営ふ

造営　時に手水舎　今の本殿　出の地　巻尾の山荘　なりしを

寛永の頃の例の御普請　おとり　考　地を見て　けり　行　巻と　御使

[illegible]社を泥[illegible]面奥の打[illegible]るまへ寄進[illegible]古老の[illegible]

○十社權現　観音堂の後

十人の草刈童を[illegible]

○釈迦堂　涅槃の像也　同所

○六角堂　同所　安[illegible]年中[illegible]建立也

○常念佛堂　同所　石仏[illegible]あまた[illegible]年号

○神輿堂　観音堂[illegible]成矢の方

寛[illegible]上古の無[illegible]也寛永十九年火災の[illegible]

[illegible]

東　中谷

庚申堂

十一面観音　地蔵堂　[illegible]弥陀　常念佛　寿徳院　自性院

江戸[illegible]庚[illegible]の梅[illegible]江戸[illegible]三番

北　谷　東側

寅[illegible]

橋寺[illegible]

醫王院

明徳院

修善院

専花院

専凌院

御灵宮

西国三十三所観音

天満宮　妙義社

同所　西側

善光院

放善院

無憧院

性真院

知善院

新生院

華蔵院

元三大門

文官地蔵　高二尺

庚申堂

弘法堂

一年縁ゝ観音境内ゝ三月十七日ゝ長市ゝ十二月十七日ゝ歳市

松のこゝろ　和市　節分の鬼やらひあり

浅草寺　山号　花川　先の伝法院と称せしの由也

待乳山　弘法堂　観音堂　本尊聖天

共乳山ゝ人ゝ言いかぞえの事ゝ

詠歌

待乳山　ゆかしきかな　人ゝ

続古今　寺号　名所集

つゝせこそ　たまちの山の　ちかつら　たまちの山ゝ

待乳山の碑　戸田茂睡　茂睡建

ものゝ　人ゝ　たまちの山ゝ

勝地吐懐　不

たゝめ人をまつちの山の花と小紫帝ゝ月も文こき
式亭の記ニいつく社宝和歌大和の国まつちの山近く行る女の
もとゝ小紫帝ゝまつりて あるとゝ歌ゝ ゝ
大和名所記定まりて大和も同名なり駿河も同ゝ名なり
古事ひろゝまぎれしあきらまつ
宇治田原記ニまつち山ゝ云所ゝ
いのゝてつきなめゝ生ぬ生所の
まつち山ゝ
まつち山ゝ
つゝみまつち
まつち山
花ゝ本のゝ

聖天社

別当 天台 金竜山 本竜院

社伝云大同元年当所ゝ勧請ゝと云ゝ
求塚雑記云宮社伊勢詣伊勢毋屋ゝ柔と云了一説ゝ
和漢三才図会云亦毋別当実崇寺也ゝ云ゝ
弁才天社 麓ゝ
此弁天ゝ敕勅願の厨中一平の改ゝの所持ゝ云ゝ再度江戸砂ゝ
当山ゝ昔ゝ池ゝ金の沈ゝ乃ゝ出ゝ金龍山ゝ名付ゝ
砂利取池 大巴ゝ ゝ
浅草社 田町ゝ ゝ
月翁の寺詣歌 ― 野巳の不二ゝ

藪の内　出羽下野守殿屋敷跡　江戸ぶち[illegible]の市場也

馬場　歌舞伎

神田稲荷社　土手下の孔雀長左衛門殿　社地入口狭く

奥深く仕廻ひ仕候　社いかめしく

孔雀長屋　土手下田町の先きの横町

俗に九尺長屋といふ也　再板江戸名所図会に地所九の先

き　吉原百廻り尾と義理なる心まそいふと云ふ

旅人の附会なるべし

日本堤

里語に云ふ箕輪浅草九丁目土手八丁　都合八丁堤

なり　日本堤と云ふ　昔は日本堤と云ふ由

紫の一本ありし日本堤なり　日本国の国主城主等より

江戸へ参りし土手なり　故に名付けし

洞房語園に云ふ元和庚申年江戸府の伏見京

の性情を以て前後の事なり　成就なり　日本堤と名付し

再板江戸名所図会に荒川水源の水源を三谷より箕輪に移して

[illegible]二本横に流れ　仙石道に二本堤と云ふ

誤りなり

日本堤の掛手続より聖天町木戸際迄長さ千三百五十
間二尺あり北の方箕輪町迄長さ四百間余 都合十三町余 新
吉原大門口より水道尻迄千百二十五間 横すぢ百五十間内
坪数都て二万七千六百十七坪 明ノ年中 御城下町坊有りし

五十間道

日本堤より新吉原大門口まで五十間余にして名付く
土手より直道を附けずして衣紋坂構へし
是ぞも道を曲て付られしは土手より廓の内見通し
中なかるべき為なりと云し

○ 新吉原 往古は此辺浅草寺前の内也 今浅草寺町の旅

石不動の辺なり
廓とは名も廓二丁四方の町割を十文字になして云所廓にて候事
但て廓町と仮名の移りと云ふ 江戸町二丁目は此地の古名
のいでゝ出来し 大門まで一筋の者ニ京町角町の遊女となる
廓の廓の者と云し 此を始に申して廓くと云しより始なり
然るに此所は葺屋の比より移りて里俗に往古て定りた
る仮宅町ありし 葺屋年中まで吉原と云ふ二軒家あり
再申しと軒を並べたり場所三ヶ所也 糀町八丁目に拾四軒
麹町河岸に十四軒大樹の内 柳町に七軒 葺屋年中
柳町御用地となりて元地御引移りに此所町と通りなり

[illegible]に依て元和二年三月葺屋町の下に三丁四方の地所を[illegible]葦生茂り[illegible]を刈り拵え地形を築立殿堂を名付く元和三年より地形元城に同四年十月中より築し諸出来一流の高貴を尽し文字は[illegible]に書考り江戸町是へ初て開基し[illegible]町也江戸町の数[illegible]町へ移り同三月[illegible]の岸の迫廿を移し[illegible]府弥勒町より鐘会所の岸へ来り者[illegible]町糀町の[illegible]を移し[illegible]ことを主の京六条の迫廿也京町と名付く[illegible]町[illegible]と[illegible]角町[illegible]角町より[illegible]

四暦三年吉原の周囲に上り堤を[illegible]日本堤の迫[illegible]考地を定び金[illegible]五方[illegible]堀町[illegible]文八甲寅年三月江戸町二丁目名を町人に[illegible]新道を造り[illegible]の内を四[illegible]堀町[illegible]江戸町二丁目名を[illegible]多く伏見堀の者多く故郷の地名を[illegible]町の名も[illegible]中の町の[illegible]初て焼[illegible]

[illegible]代に正徳年中[illegible]角丁[illegible]

七月[illegible]元年七月[illegible]追移[illegible]

[illegible]島の切[illegible]同じ回忌の時[illegible]破[illegible]

[illegible]

竜を造りて八部を安置す 寛保の末より盛んなる中の所に
花を植えて寛保元年酉の春より初まる唐土の迎宝
花併所の花柳花と称す 花と柳植るゆえ古実と叫ぶ
より青楊大夫京殿也
朝日の東より出る 朝日の影 探りて
弥陀の尊像の所 是をもづからうつしまぶみ出る 地蔵
仏ゆえ代代仏へ 故有て 九月晦日 毎年七月十三日より十五日 開帳
[illegible]
叫の西光山大善寺 仏を[illegible]
九郎の稲荷社 社

元吉郎[illegible] 和同四年より[illegible]
御使[illegible]
○五十写道 土[illegible]
江[illegible]
[illegible]
○衣笠坂 土[illegible]
○袂 柳 左[illegible]
○馬道 [illegible]
往古[illegible]
巴馬の[illegible]

○元食お　許より家の[illegible]
政所に[illegible]車義七[illegible]先祖上杉景勝に家来車冊炮
[illegible]者[illegible]御[illegible]度所[illegible]越て[illegible]家来[illegible]者
江戸へ連来り元食の中へ入レ置名[illegible]事歟[illegible]廣大不
思議の神慮[illegible]御免有て元食の孔と成り名[illegible]申伝へ也と
云へし
桜[illegible]車冊炮に上杉の士と[illegible]仕の家士[illegible]組続
漢へ違て書シ[illegible]ベシ

今戸

桜[illegible]此四[illegible]瓦器を[illegible]今戸焼と云是を今土焼と書[illegible]
可[illegible]今戸を土と用[illegible]地名甚多[illegible]江戸に在戸
也筑[illegible]を筑土と書此類[illegible]
○今戸八幡社　別当天台浅草寺八幡山無量寺松林院
社伝云康平六年勅[illegible]移奉八幡宮ト同社也ト云し
○今戸橋　金龍山[illegible]
○靈亀山慶養寺　禪宗　羽州竜明寺末　今戸橋
并山明山良察大禪師　寺中潮江院
寺傳云当寺昔浅草西福寺の四[illegible]後宝永[illegible]移[illegible]

宗天社 弘法大師居ら傳来也故有て古寺ニ勧請也
○林泉山本龍寺 一向宗 東本願寺末 同所
開基 了空法師
○清国山 称福寺 同 西本願寺末 同所
開基 了知法師
○妙德山廣乗寺 同 東本願寺末 同所
開基 円秀 中興
○東ヨ山 勝雲寺 浄土寺末 宇戸所裏
開山 本蓮社德巻上人
○常照山 心光院 増上寺末

開山 近巻上人
○霊亀山安昌寺 禪 泉寺末
開山 叔州 拙大和尚
○通川山 蓮 寺 一向宗 東末 妙高寺隣
開山 了頑
○原五山妙高寺 法華宗 誕生寺末 安昌寺隣
開山 日立聖人

橋場

寺名 瓦深
源平盛衰記ニ考ふるニ 北朝陽田川ニ字柳を掛め此川を

後の豊島の上流野川松林に陣を取ることなりまハ其時新田
方敗走へハ為なりたるべし
江戸物語に太平記に新田武蔵守義宗
まて引たりとあるハ今の新田戸石塚
橋なり江戸物語作者太平記を引のまて見るに新田戸石塚
まて勝軍也太平記三十巻こゝにて新田武蔵守義宗就
き先と進て天下の為ハ朝敵也我為ハ記の敵也唯今
式の首を取て軍つて曝さハ何きの時か期まべきと自余の
敵共ハ方へ分引るを少し目をかけも只二つ引返
の大旗の引に付て何ほまて追蒐引て策を拳

追ひ逸足を出すもかなをしたるより石塚まて坂東道已に
四十八里を片時の間に追付たりとて又一陣まで実に義宗
打待て追来り勝也此時江戸物語に新田武蔵守石塚
まて打負て打引たるかと云ふ大なる誤也笑ふべし

○石濱神明社　唯一神道　鈴木兵部

社伝に書社神明宮ハ人皇四十代聖武天皇の御宇神亀
元年甲子九月土の鎮座なりて往古より近国の人伊勢までハ遠路
ゆへ皆此社神を信仰しけるに也建久の比此国一円に千
葉介常胤所地勲功ありしに依て当社を氏神と
祈願しまつる

末社　巽之方

八幡　春日　住吉　一社　水神宮

天満天神社　額　高辻世長朝臣

社伝云当社天満宮ハ菅原ノ真作ニシテ日本三体ノ一体也
高辻前大納言家長卿の家ヨリ明和四丁亥年五月五日神
明社地ヘ勧請也当社ハ地ニ当ル故ニ豊島の峡田石宮
の庄ニ鎮座シ奉る則京武の地ヲ移シ奉る也

末社　左の方　牛頭天王社

恵比須宮　庚申社

疱瘡神社　稲荷社　金比羅社　山王社　灵社

○真先稲荷社　同所

社伝云当社ハ千年ノ昔ハ風鎮護神ニシテ合戦の度毎ニ
祈願ヲ奉ル時ハ兵士戦場ニ不思議ニ先駆シテ高名ヲ
ナス故ニ武士ハ稲荷ヲ真先稲荷ト
神号ヲ奉る也

○玉姫稲荷社　同所　別当　不動院

社伝云当社ハ山城稲荷山の移シテ天ヘヒカリ所ヲ去ル
ヲ以テ又標茅の原ト云フ玉ノ岩岸稲荷の神ノ像ヲ
云伝ヘテ勧社ヲ御玉姫稲荷ト称シ奉る事ハ
計田左中将実貞卿ノ御祈願ニ依テ

樽樹の所[illegible]を[illegible]大[illegible]瑞理の宝塔と称の丈を[illegible]所に納め奉る
奉加し玉姫稲荷と号る号[illegible]也

○標茅ヶ原　玉姫稲荷社地の辺をいふ
八雲はおと[illegible]あぢうの下略[illegible]しるる[illegible]
按ずるに俗字通例書[illegible]下野の在所[illegible]云
勝地四懐編に以清[illegible]歌音の所歌[illegible]新[illegible]
めしうの[illegible]草と[illegible]る是[illegible]いふ[illegible]山の[illegible]
[illegible]と書くに[illegible]地名[illegible]地尚[illegible]

○隅田川渡　江戸砂[illegible]
伊勢物語に[illegible]日も[illegible]

で五[illegible]の要所海道[illegible]
南向[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○駒洗川　橋場の下の宿の傍をいふ
南向[illegible]鎌倉右大将新朝隅田川合戰の時馬を洗て
[illegible]合戰の首塚[illegible]
蛇塚[illegible]
梅[illegible]

うち猿の面と流て男の川きしの神の水のしるのみ
かゝて陽明の四季とあれハ氏弱地川の事なるべし
まつの川すぐし度うりしゝ今そのかゝ四川四あるべき
と思まし侍らん

○石淚塚　江戸砂子に云ふ江戸石の塚のかゝふ
江戸城中の築守風子三郎胤風右田道灌を討て武州石淚
塚に居住す面を記せり是は安孫
松平忠鎮公大学頭に馬加陸奥守原越後守野州常
陸殿に御頼ヒ千葉実風を取立て本城を安堵サセント
市川の塚に橋竜と大勢在る由実へハ成氏より南圖書

書り筆田出羽守其外大勢差遣し一数度合戰ニテ康正
二年四月十九日終に城を攻落し実風武州石淚に居住し自
風武州赤塚に移両総州に無共大半成氏へ降参なるト
アり守風天文中石淚に住し太田道灌の時代ニハアラズ
江戸砂子に引る千葉系圖にいふ所の妄作の系譜の
ハ中の一千葉系圖を考るに千葉介胤風の子彦風
治賢風　中務大輔と云其子元人ノ太郎　千葉実風中
務大輔自風也守風実風の子也其子二郎雅風其子三郎
四風天正元年　古河城に於て討死れ是を石淚の千葉介と
云なり

○鐘の説　桂林記　海の中

再板江戸紀事に云ふ保元寺の鐘樓崩れて鐘沈水底
のたゝく時は船より鐘を見ゆることもあり今法恩寺
書考桂林記又曰く享保の末隅田川沸成の時この鐘を
引上げ由命ずる数百人ありて上りやすくなりぬ水中に
鐘樓たゝり水草繁くつゝまれ此既の光りて
恐れて人綱を数十筋付たりしかども切て持つあたはず
夏雄の云く右の説おそらく相違なるべし
強い所の人云ふ本所亀戸無量院法恩寺疑ふ
所なし　則ち亀戸説　無言宗福聚山等慈寺無

量院の縁起に云ふ大永二年下総国足立郡隅田川三俣堀
中程の浦自風の待臣佐田善次盛光後言に依て誅に伏す
于時観世音に祈念して日夜を折観音の像を刻み血流自
風雷鳴き見を覆ひ一堂内に移し一宇を建て長賢上人を尊
坊として福聚山無量院と号す地を無量院廊と名く
今の隅田川辺也年を経て元和六年庚申栄春上人公命に
依て亀戸に精舎を移す運慶の刻観を隅田川に流して
沉没す今の観音の説是也と云ふ此寺無量院と号す代々観音
の縁起を見るに是正説なるべし

○浅草の説　法恩寺　深川にあり

宗祇田圃池いさしの名ものの系を云所すし
人めをくこのそこ淋さうしつくきにのこのちうの系の乳をうけて

○妙亀塚　妙亀大明神しるす　妙亀の系
梅若丸の母塚也　貞元二年池に身を投死を葬る
かくまでのつりおすの代をのうり妙亀水のうみ見て
やくいちをうをなりて来。たらしまを地を人のよまぞ

○鏡の池　同所　妙亀尼の身を投一池なり

○袈裟掛松　鏡の池の傍に有一名衣掛松
妙亀尼のをしみ此松に袈裟を掛て池に身を投死しゆえ也

○弁才天社　同所　別当弘法寺末福寿院

神体は妙亀尼をみるとし
鷺氏の陳士道仲一宇の堂を造立て又新たに一口の鐘を
鑄て之を鈔、再興の願文を池に京保七弘法寺の新しき
鐘の貫目に此鐘を見て八字を亡と洞房伽藍ことの
又いつく道仲も鷺氏にて寛永年中花子の狂言す
名を茶一者也故に出家して鏡の池の辺に住一明暦元年
戊申七月九日往生とて同書に見えしかり　一年七月九日
かいつく鷺氏鷺を掛て道仲と号一ろうく茶をさらい
法を刈撰池の東に弁天の小祠建立する由是又同書
見ゆ

○鏡池庵　同所　総泉寺末

此庵ハ梅若東下りの像藤原信直卿の梅若縁起の画筋
承応元年の縁起ハ寛永十四年書ハ由なし

○采女像　かゝみが池の四ツあり云　所名詳のちに
寛文の比采女といふる僧此池へ参り松ハ山神を手
短尺をもて身を投け死せよ
名誉をもとゝ大ら此も猿楽の踊を張り池こゝろめて
ゆゝしき事一由ならぬ事の一也　江戸庵を立ハ
○妙亀山総泉寺　曹洞宗　寺花三十石　江戸名所ハ
開山亀叟宇俊和尚　石浸浅草の東　総寧寺末

寺院　樹峯庵　松吟庵　妙亀庵　鏡池庵

所化寮　六宇

当寺中興開基千葉守胤宗宇ハ再興也
江戸砂子云千葉介常胤石塔ハ寺ハ墓誤り也歟し再校
また改作せり彼の石塔則当寺中興也　千葉守胤の石碑也
総泉寺殿長山昌徹大居士　弘治二丙辰八月八日卒
桓武天皇十四代千葉介守胤
当寺ハ宇都宮弥三郎石塔ニアリ　弘安徳江の年号也

○明皇山出山寺　泉寺末　同所
開山江山巌英大和尚　本寺出山の釈迦　為愛作百観音安置
○心月山永傳寺　浅草永見寺末

冨山　久嚴良大和尚

○　慈恩院　同所

○　円性寺　〃

○　法藏院　〃

○来迎山　仰願寺

冨山

○紫金山　周光院蓮華院　塔上寺末

冨山　慶蓮社軌誉成弟傳夢和尚　地蔵堂行基作

○無量山　福壽院　薬師　猪泉寺末

冨山　叔州脫岸大和尚　一説　肅州悦巖ニ作ル

○飯命山無量院法源寺　塔上寺末

冨山大僧都智海法師　大同元丙戌年三月十四日寂七十九才

砂尾石渡道場開基ト石碑ニ有リ三世權大僧都惠海

法印齋衡元甲戌年四月十五日寂石碑当寺ニ有リ中興開

山檀尽ト人也是ヲ浄土宗ニ

善光寺如来　石ヽ刻ニ有リ康永二年ニ何

齋藤別当実盛石塔　寿永二癸卯年五月ヨリ法名

藤原院前左金吾従五位徳山慶道真所大居士

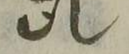
梶原摂太夫景道石塔也五輪　延文二庚戌年十月廿三日

桜ヲ〻ヽ　亦藤原ヲ書ヲ石塔　いろ〻ヽ苟寺ヽ　亦藤氏

子孫の建てるならんかの古き石碑 [illegible] 仁壽三年
癸酉三月十五日 [illegible] 西京三年六月廿七日 [illegible] 誰
人の [illegible] 延暦五年己丑天六月廿七
[illegible] 朝臣四辺有理師と云碑 [illegible]
殿の松 実盛石塔側に [illegible] 大木卯
貞雄云 [illegible] 法隆寺 [illegible] 古碑共 [illegible]
大同元丙戌年 天長七庚戌年 仁壽三癸酉年
齊衡元甲戌年 昌泰二戊午年 康元二丁巳年
文永九壬申年 正慶二甲酉年 正和六丁巳年
右年号の碑 [illegible] 立 [illegible] 何れも古碑 [illegible] 殊勝

[illegible] 尼 [illegible] 大同元年と碑 [illegible] 古碑 [illegible] 其裏面
[illegible] 尼 [illegible] 依 [illegible]

表、



大同元丙戌三月廿四日入寂
春秋七十九歲
大僧都智海法師
砂尾石塔道場開基初祖

裏、

由緒宝亀元庚戌春
貳間四方建大日堂
延暦三甲子秋村里人民
成寺砂尾石塔跡道
場
弟子了海設法

右者如斯石碑破壞
元禄八乙亥年十月廿四
十五日両役 [illegible] 山二世
伝瑞夢ノ相義紛紜
法巻 [illegible] 刻

此所ハ大同の碑に古碑と有り

○敬重山并空寺正憶院　同宇　知恩寺

開山法蓉上人

○谷相山放相寺　浄土真宗　東本三谷氏

開山了還法師

○砂尾山橋場寺不動院　浄土宗

開山早末

砂尾不動　良弁僧正作　砂尾寺伝に惠心僧都作

南向茶話云此所に往古砂尾院太夫と云人有り太田道灌

と合戦の石垣の戦と云是なり砂尾院太夫建立の寺

なり砂尾山と云ふ

○深栄山長昌寺　日蓮宗　身延末　牟性寺向

開山　寂海日寂聖人　弘安年中正化　寺中奥音院

中興　元和年中酒井忠次再興也化御府内日蓮宗寺の古

跡なりと云

○朝茅山周光寺玉蓮院　智恩寺末

開山　超巻上人

新鳥越　上古沼草山谷之内也

堯恵紀行曰文明十八年十二月廿三日隅田川の鳥越と云海お

善鏡なり尋ねて行き見て笠原にて男女崇めなり

金光寺東南ニ付テ云
江戸砂子ニ正保二年ニ越の社地を代地として三谷村ニ移す
賀茂越と京都ニ並ぶ代表記ニ三谷の賀越と書キ
の名を云うと出

○熱田社　鶴場神社神主　鈴木兵部持

社伝ニ云　祭主元鳥越明神同年ノ則元鳥越ニ社ヲ
熱田大明神　鳥越明神　外六天神　然るに正保年中元鳥越御用地
ニ成て其時三谷村ニ熱田の社を引此時元鳥越百姓数
十軒引移り改て村名越と称宝暦年中迄元賀越御
主鎮水免仕兼帯ヲ以て相伝神明神主

の兼帯と云ふ　祭神　日本武尊　祭礼十月十五日隔年
也　社名越四丁三谷坂海ヲ也
○新鳥越橋　金竜山の下切ニ掛る日本堤へ元つる所
○鳥越稲荷社
○穢多村　字豊成新町ヲ
往古ハ日本橋室町の辺ニ有ル南大国の修験所ニ移ル田弾
左ニ つ先祖ハ摂州泉州の産ニ相州鎌倉ニ来り古大将頼朝
卿仕へ長吏節ヲ配志ル　源文を習ひ鎌倉ニ勝ル
三奉行ハ長吏ニ任ル　鎌倉八幡宮ニ先立て供奉ス
南男山八幡宮ニ先立て供奉ス　祭礼ハ

[illegible]の薩摩守[illegible]大和国長吏より差上[illegible]天平八年
[illegible]国の時彈左三つ武蔵[illegible]遠出彈[illegible]
[illegible]長吏以下[illegible]元のごとく命せらるる也
所持[illegible]の市刑を[illegible]の系所傷刑の時彈左三つ左肩
へ[illegible]頸の時[illegible]の文字の[illegible]刑制苦のため[illegible]
今に用ひたり

菓子曼荼羅　相伝に云日蓮聖人彈左の宿に入時
菓彈左三つ宿の番を勤む[illegible]日蓮に曼荼羅を[illegible]
[illegible]年[illegible]免[illegible]叡て菓を束[illegible]
書てあり今に彈左[illegible]付へし行心の者[illegible]也

○白山擂鉢　新下の内
江戸[illegible]云白山石と[illegible]疱瘡の守と[illegible]
[illegible]白山擂鉢此[illegible]
[illegible]稲多村[illegible]

○弘願山専称院西方寺　浄土宗　本尊大[illegible]
開山[illegible]上人　江戸[illegible]世[illegible]
[illegible]職[illegible]弟[illegible]道心者也　[illegible]
世人[illegible]開山の[illegible]云来[illegible]
江戸[illegible]云汗[illegible]阿弥陀立像三尺安阿弥の作　[illegible]佛
同書[illegible]紅葉一本卯[illegible]の内[illegible]

吉田三條院ノ御代ノ高尾ノ墓ノ寺ニ在リ
て楓を植ゑ也 石塔ハ地蔵を刻 法名仏光妙心 正応三年
[illegible]

○誠向山正法寺　日蓮宗　嵯峨　新宮通一丁目
[illegible]山四条院日位上人 建長年中 新宮 昆沙門天仏 [illegible]
○遍代山不断院真弁寺　浄土　天嶽院末　同二丁目
[illegible]山深蓮社四条上人 万治三年八月十三日 寂
○月照山天光院養白寺　浄土　智恩末　同所
[illegible]山經蓋上人 湖誠和尚　本宗 海西院　嘉応 都作
○弘誓山成懐院大秀寺　同　同所

[illegible]山法蓋上人 往古本江大根畑ハ左京之丞久年中 [illegible]
○法立山常福寺　日蓮宗上ス本断寺末
[illegible]山　日立聖人
○妙光山円常寺　同　妙満寺末　〃
[illegible]山　日竹聖人
○千珠山理昌院　禅　品川天竜寺末　同所
[illegible]山弁鉞和尚　本尊釈迦　愛染明王　弘法大師作
○円光山常行院源照寺　浄土　智ヲン末
[illegible]山　殷蓋大
○光明山摂取院廻照寺　同　祇行寺末　七戸寺所

開山作善天武和尚　本寺阿弥陀仏作
○安養山浄性院拯弟寺　同
開山諦善隨現和尚
○千葉山安盛寺　日蓮　所持寺末　武蔵
開山　安立院日好聖人　千葉氏末子下リ千葉の産也
鎌倉妙見社　千葉安盛　守本尊也
○頭陀山月光院瑞集寺　浄土　惣上寺末　同二ノ月
開山　浄天上人　本尊阿弥陀　高麗大仏作
三面地蔵尊
○鳥越山慶性寺源寿院　同所

寺伝云天□の比叡立中興開山慶尊上人弥陀和尚建
九年寂往古元の鳥越の神地内に有正保年中当所
移ル
江戸百社の内七十九番弁天社大仏作
○来迎山傳法院仏弟寺　同京墨名末　同
開山法尊上人
○朝日山清浄院浄土寺　真宗　西末　同
開基証金性房　亜相公子供養
○金智山法花院　真言
開山法印栄秀　弁天社　出雲

○當麻山念佛院　浄土　智恩院末

冥山慶尽尼　十時姫寺

秋葉　示天　稲荷

○千福山本性寺　日蓮　本能寺末　同所

冥山　日達　尼人　三十番神

秋山自在天神　本性寺境内ニ

産婦疼痛ヲ苦ムモノ是ヲ祈レバ霊験ヲ奉納ス　諸願

今ハ是ハ新川ノ酒屋九郎右衛門ノ家ニ勧ムル

疱瘡ヲ患ヒ近辺甲斐九月廿一日ヲ以テ病死

ヲ病ムモノヲ始メ之ヲ云ヒ天ヲ祈ル也

山谷

新鳥越ノ先キニ在リ新鳥越ノ辺ヨリ起テ山谷ヲ云

由山谷ハ山谷ノ名ハ又三谷ヲ書キ谷ヲ谷ト

土地ニ

○山谷稲荷社　山谷ノ東ノ裏

○荘厳山一心院専念寺　浄土宗　駒込所行寺末

開山荘蓮社厳誉上人　本尊阿弥陀　恵心作

千手観音　安阿弥作

○見生山宗林寺　浄土　浅草壽松院末　同所
開山　眼蓮社心誉上人
○護念山正覚院道林寺浄土　知恩院末　同所
寺傳云開山眼蓮社最誉上人説道和尚寛永三丙寅年
就之開山生國上総国の人西久保天德寺見誉満徳和尚の
弟子也当寺元馬喰町に有其後小川に方移し移る又当所
に移る也
○大運山廣德寺西照院　同増上寺末　同所
開山天蓮社冠誉上人　明暦二年三月敵幸子阿弥陀如来像
○月光院春慶院　日灵岸寺分　同所

開山　團誉上人
吉原三浦屋の初代の高尾の石塔有之所　此地法名
轉誉妙牙信女　寛文七丁未年十二月五日　時を高尾と云ふ
紅葉の時と誉て切けしかりしと　土手の道筋西方
の所に有之　此石塔　新吉原
○恵日山東禪寺　禪宗　浅草寺末　同所
開山東嶽和尚　開基　塔頭逸和尚
当寺は地蔵堂大和尚　開山元ヶ達之子　寛永十二年
○日照山不退寺　浄土　増上寺末　同所
開山念誉上人　易道和尚　文亀二壬戌年　起之　浅草山の宿

明暦三年今の地に移る旧地山の麓今の出茶屋敷の地也

荒松　大木なりと名称也しかり今の持てり　華棚　無古寺屋敷也

○青龍山福聚院　天台　塚名寺来　同所

開山

小塚原

江戸砂子に云花房社地に瑞光石と云て塚の上也両脇の猫と注連を引又此石を前石とも云ふ此塚を割て此所を小塚原と云なり

○飛鳥社　小塚原産土神　別当　前石山　神應寺

祭神　大己貴神　事代主命　二座

當社を異称天王と云ふ天保年中　塚の上に前まえ石社上に牛頭天王の石碑向ひあり　開基里俗法印の由

江戸砂子に有

○山王社　同所　大川端　青竜山福聚院持

○四心院山日慶寺　日蓮宗　身延末

開基四心院日相尼聖人

鬼子母神社　安置

○龍華

江戸城ヲ云ヒ保慶ヲ此近淺草下谷辺皆境内ニ属ス

延享一年東叡山　御成ニ御臭気有ル故ニ移ル

鈴木ヲ今の所ニ方一丁の地ヲ賜フ下谷巳の諸寺ヲ

この寺ハ本堂ハ其時下火寺二十余寺ヲ焼ク故ニ

其後破壊ス今十八寺ヲ

珍書考ニ曰死人ヲ取扱ヒ者ヲカンボート云事我朝近

来の詞也黄ハ鍋穢又ハ扱者ナトト云ル事大江匡衡ガ拾遺

集喜仙法師ガ字治随筆ナトニ見ヘタリ何ワレ此ヨリカメニボー

トニヤ時代不詳　文字ハ詩林法記ニ東坡對古骨七言

絶句ニ蓐哀未在隠七　隠字ヲヨントモ假名通ル故ニヨン七ト云ヘ

ルナルベシト出タリ

○豊濃山惠心院北言願寺

開基　惠心僧都　中興開基增上寺十八世了蓮社定誉上人向西

隨波和尚

○稲荷山勝林院源長寺　同　同末　掃部宿

寺傳云京出迦蓮社回答不殘与人也　伊奈備前守開基也

法名勝林院殿周誉源長大禪定門と云往古は草庵なりし地
草創と云事をしらず藤誉馬子作聖治太子十六歳御影
を本尊とし今に安置眼に安置其石長十五尺成年三尊院
を源長寺と改し其年二月也の和尚田芳と人敵音の夫
妻を勢り淵ありし今の寺を得たるを
鎮守稲荷社　天文十六年丁未五月より鎮守也

千住

南向茶店に加茶分限帳を引て金杉千束と出たり今は
千住ばかりなり狩場なり　是は長四郎の屋敷なり今千住
五丁なりと云
○千住大橋　長六拾間　荒川このくら
○茶屋　ひろう茶屋　千住宿と内
京侍の比千住四郎兵衛の茶屋の茶釜をかりて寄り来るみの
きたりしを用るゆえ掛をもて銀子を出す
名を銀のそちいの茶屋なりこのぐみ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○千龍山 妙智院 慈眼寺 真言 同二月

○白幡山 不動院 夢保寺 同 同所

○永川山 閻魔院 金剛寺 同 同郡

○ 安養院 同

○三宮山 常行院 勝專寺 浄土 駒込 蓮光寺末

○萬德山 不動院 真言 元吉祥院末 梅田村

○五智山 惣持寺 同 御朱印二十石 西新井

開山 法下 權大僧都賢真 弘法大師像

新編江戸志巻之二上終

新編江戸志巻之二下目録

一浅草　新坂
一浅草　八軒寺町
一浅草　田原町
一浅草　三十三間堂跡
一浅草　新寺町
一浅草　寺町
一浅草　七軒寺町

新編江戸志卷之二下

東武懐山子輯著

浅草寺院並寺中の神社

按ずるに江戸廣し江戸城をはじめ寺院の山号本寺を
誤るもの多し予昔年けいこの暇を改む先書に依り
書しるせども誤りあるべし元江府の寺院は略しく
考へ易き暇にて漏れし又多くは此人の考を
待ちみ

○不老山無量寺壽松院　淨土　智恩院末　元島誠
開山光蓮社善尭上人　林真和尚　慶長十年大朝和尚に請

上州高崎大慈寺ハ始ハ大朝和尚又昊山寺と草創ス
当寺ハ相模国ニ有リ文錦三年創建ニシテ当地ニ移ル
鎌倉ノ内ニ寺地多キニ依テ鶴岡ニ移ル
移ル　江戸城ノ西ノ丸
當寺ハ菅相丞平年ノ観世音ナリ
塔所　長壽院、良祥院、紹隆院、信入院、
玉泉院、隆崇院、空巖院　峯林院、清眞院
○東光山良雲院西福寺　同宗　日本寺院百石　新地小アヂ
寺中　春心院　法林院、林盟院　真行院
長慶院　智光院、源崇院

寺付云　開山真誉ハ伊与人也母ハ安房ノ鹿角ノ者ニシテ遠州
屋ノ嶽ニ魂祠ノ願ノ師也
当寺ハ往古三州ニ有リ依テ台命ニ依テ駿州ニ移リ寛永比当寺ニ移
礼駿河ノ地ニ移ル寛永十五年寅年駿ノ川崎ニ所者ナリ
良雲院殿ハ本丸竹姫君ノ母ナリ甲州信玄ノ女也天正壬午
十二月十二日入輿寛永十四丁丑三月十二日逝去当寺ニ葬リ
奉ル是ハ昌清院殿ノ母君也
昌清院殿ハ慶長三年浦出家ニ嫁シ玉ヒ長沢浅野長政
再醮也元和三年丁巳八月晦日逝去御位牌当寺ニ安置ス

尊所作長三尺余阿弥作寺門出来の時迯身に所行の
也

多門兵衛稲荷社　三州以来鎮座

鎮守江島弟子天社

第三世梅巷上人の感得にて弘法大師の筆にて書写し
猶礼拝象興也一度法憧順擁護

御音堂　三州より陸奥の賞にて出来賞に他に矣

撞木の銘　世にて是を称す

海にて或人云寺を松ヶ浦西福寺と云て行者三州松ヶ
浦にて其時の松ヶ山にて寺仏を

○化用山常照院浄名寺　同宗　増上寺末　寺領三十石

塔所　惣信院　憲休院光成院　新地西福寺内カワ

月　松院源信院　称専院

寺伝曰開山性巷上人憲休大和尚　永禄年中草創

本尊阿弥陀　長二尺三寸　慈覚大師作　紀氏尊像也胎中ニ

鑿鋸の道具を納めしる　富寺ニて駄河国ニ住寛永十二

乙亥年三月当所ニ移す

観音堂　聖観音　長二尺五寸　慈覚大師作

鎮守渡唐天神　上申ニ寺出現の由

○正保山醫王院東漸寺　上野末　同所　浮岳寺ノナラビ

本尊藥師　行基作　開基延慶ヒ成

寺傳云中興開基太田道灌本尊ハ則ち式神の共ニ成ル得し書ス

性空上人本尊護持し本尊正觀音御有經佛と号ス十二神像ハ

威靈梅壇乾闥婆王女置産婦諸童子の守護神ち

ヲ寺ヒ置ハ　而城内ニ有ル故駿河の基ニ移ル又神田豊島ニ移

ル　正保年中ニ此所ニ移ル

稲荷　山王　牛天祠同所

○金剛山藥王院龍宝寺　上野末　同所　東漸寺ノナラビ

寺傳云開基比叡山正覺院大僧正高海

本尊赤梅檀如意輪觀音昆首羯摩作本尊ヒ成ル

開基院ニ有ル　長比ニ神田駿河の基ニ移ル　当社寺建立

ヒ本尊を宇佐ヶ宮寺ハ石寺ニ移ル

○清竜山常福寺　同　同所　竜宝寺ノナラビ

開山大僧都法印本祈

○本光山善照寺　東末　同所　常福寺ノナラビ

寺門　栄敬寺、真敬寺

開基　明信　麻布善福寺　十六代目ヒ也

江戸砂子ニ曰当寺相良出羽守ヒ成ル　当地ニ一宇建

立ヒ成　浄土真宗ニ末寺三ヶ寺有ル善永寺称揚寺二ヶ寺ハ

本願寺分流の時西蓮川當寺明信東に帰れ教如上人感
玉ひ宝物を与へ給ふ

○陽雲山心月院　禅　羽州徳寺末　同所善照寺
開山雲谷嶺瞰和尚

○球島山是應院龍宝寺　浄土百万遍末　同所心月院
開基是應上人　慶長年中起立　本尊如来惠心作
寺中　長寿院　澄月院　西光院　光興院　得立院
称名院

○

開山寒蓮社松誉源貞和尚　慶長年中起立
本尊　惠心僧都作

○鶴幸山般若寺　感光院　真言　同福寺末　同所
開山　祢清大僧都

○桃雲山永見寺　禅　吉祥寺末　同所
開山　用山元照和尚

○紫雲山常円寺　浄土　塩上寺末　同所
開山　性蓮社門山見誉上人

○阿含山不動院　真言　護持院末　八軒寺
開山　賢鏡法印

○万壽山松應寺　中興　栄実法印　禅　大松寺末　同所
開山　悦列和尚

○灵雲山桃林寺　同　妙心寺末　同所
開山南雄英禪師　慶長年中記之
○法江山金藏寺　天台　上野末　同所
開山祐憲大阿闍梨
○万年山東陽寺　禪　東昌寺末　同所
開山勅特賜大峯佛雄禪師
于向野　境内三町
寺傳に京極古い文也て奥州海道すて刑罪坊すり故ここに魂
を金佛寺如来向社ここに[illegible]京保の比義睡と云る人
の建一所ならし火災の後に跡なくなりぬ

風に音をしらくを面つちのたへぬは法の向きまして
此義睡の世見とい[illegible]
[illegible]百人一[illegible]
[illegible]
櫻ヶ井　境内二町たゞひなき名水のよ
○江月山海雲寺　禪宗　上州陽雲寺末　同所東陽寺トナリ
開山天得隆鎖和尚
○中將山大仙寺　法花　池上末　同所海雲寺トナリ
開山日堂上人
○長瀧山本法寺　本寺觸頭　同所大仙寺トナリ

〃 山　東光院日光院人　寛永比叡之
熊谷寺左衛門稲荷社　社伝云熊谷あたつ、當寺の檀家故
勧請歟早観音寺内へ勧請せ〳〵と又當寺へ勧請せるなり也
熊谷あたりの者も當寺へ参詣
○天龍山玉宗寺　禅　伊豆伊豆寺末　同所　東陽寺向ガワ
〃 山葉山和尚
○象頭山本智院　真言　智積院末　同所　玉宗寺ナラビ
△聖天宮　〃 山
○峯松山仙蔵寺　同　同所　同所　本智院ナラビ
〃 山

〃 山
○室樹山実相寺　法花　妙満寺末　同所　仙花寺ナラビ
〃 山　正法院日見
○東本願寺
江戸砂子に〃 基数如上人太閤秀吉のもとのうひとしてい
舎弟順如上人を本寺の跡へ　故如上人に裏花園と
陽花院　城　四条室町の東に所堂は建立
より寺西の寺新寺なり寺号に神田明暦年中當所
に移る寺の田地今神田四神下の加賀町より云ふ
の井を名水の井と

塔頭　長敬寺　德寿寺　善興寺　滿照寺　連行寺
真福寺　光円寺　願王寺　證願寺　西光寺
西正行寺　等光寺　通覺寺　宗恩寺　敬覺寺
兼願寺　長泉寺　嚴念寺　善花寺　錄泉寺
法融寺　円照寺　即通寺　開成寺　来庭寺
明清寺　真覺寺　蓮実寺　淨林寺　法善寺
泉照寺　淨正寺　源通寺　源流寺　明順寺

元祖親鸞聖人童名若松丸　後宮範綱父藤原有範世尉馬守源義親女ナリ　弘長二年十月廿八日
遷化九十九才　第一世如信　元祖上人の孫子　善鸞上人の子ナリ

第二世覺如上人　親鸞上人の孫覺惠坊の子也　弘應三年正月
九日化八十二　第四世善如　從覺の子ナリ　覺如　孫也　康應元年
二月廿九日化五十七　第五世綽如　則善如の子　明德四年四月
廿四日化四十四　第六世巧如　綽如の子　大納言資康の猶子ナリ　永
享十二年十月十四日化六十九　第七世存如　唐橋大納言兼信の
猶子ニテ巧如の子也　長禄元年八月十八日化三十二　第八世蓮如
存如の子ニシテ中納言宣光卿子ナリ　明應八年三月十五日化八十五
歳　第九世實如　蓮如の第八の子ナリ　左大臣時有猶子　大永五
年二月二日化六十八　第十世証如　円如の子ナリ　實如ナリ　孫ナリ　九
条尚經の猶子ナリ　天文九年八月廿三日化三十九　第十一世顯如

上人光信の弟子にて文禄元年十一月十四日化五十三歳 敬如准如
にて上人所敬如京本願寺始祖にて元祖より十二世にて当長十九
年十月五日化五十七才十二世 敬如 敬如の子万治元年七月十五日
化五十五才十四世琢如 宣如の子寛文十年四月十七日化四十七
才十五世常如 琢如の子元禄七年五月十六日化五十四才十六世
一如 常如の子元禄十三年四月十六日化五十二才十七世真如上人なり
和漢三才図会に有り

○海東山崇福寺 禅宗 徳寧寺末 田原町五本松寺より
開山骨山徹大和尚 中興香巌和尚
開基酒井雅楽頭殿の

○万松山大松寺 同宗 青松寺末 田原町
開山 頭室天大和尚 天正元年創建
○田中山得生院清光寺 浄土宗 増上寺末 田原町大松寺より
開山信誉上人 中興開山実誉上人 本堂阿弥陀如来 心作
等伝如来 作者大仏作 明暦年中水戸家より寄付
塔頭 正覚院 梅香院 超真院 智徳院
○高竜山報恩寺 一向宗 元飯沢報恩寺末
寺領三十石元中 田原町 清光寺より
名所記云開山聖心坊 元祖の弟子なり下野国飯沢の一宇
の坊舎建立なり 飯沢天神 海道 紫の戸帳を

襲衣の料、聖城に賜る。又御池の鯉を捕て召れ給ふ。
其例として正月十日能二口飯沢より今以て奉来る。その所ゝ
鍬餅、方々より差越く。御お〻使ひ所を二ツ
祝ふなり。

一親鸞上人じゆ二歳御影
一同直筆の教行記
一茶臼　聖の所ゆ
一蛇丘の太刀
蛇丘袋尻る成の作り、聖所ゆ家伝して持きる小鼠を回
りしが、狂式服差を身を放て火ゆ所、来て伊度急ぎ
一同回国の笈
一御所持の団扇
一聖四位過去生の骨　夢想のうちにて
寛永十年十九六

海中より大蛇出て船に乗り移り聖四位をのまんとす。此刀
ぬきし大蛇を追ひ〻り月をあて所刺て
蛇丘と名付て今に有と。扨又寺社古下絵飯沢より梅田
引越りを八十俗に移り今城草に移る。明暦三丁酉年間祿
以後の事なりと云。

塔頭

養蓮寺　永願寺　長善寺　高徳寺
林光寺　専念寺　光照寺　聞明寺
長竜寺　真照寺　高念寺　西光寺
西岸寺　竜淵寺　正法寺

○田島山華厳院誓願寺　塗寺院四百石　寺院寺僧

開基　見蓮社東誉上人

本尊阿弥陀　書日作　上人夢想の事ありて春夜と名ぶつ秘文

より守り寿本尊也

綱引三尊　房州片浦の岩窟より出現の尊像なり

鐘　往古御城内にありしを当寺の鐘なり

元禄年中一位様之御時御用ありて小さく

寺不相応なりとて鋳直せしなり

当寺往古相州鎌倉にありしを御当地に移す地は今の西

の丸也也ふ浪限り移又御用へ移す今元禄年中と

不明慶長年中当所へ移す　（上記の御寺　社務覚記）

照光山安養寺　往古の寺内　寺院百石

元禄年中用米大草刈之開基快乗院主なり宗旨浄土

快乗院寺住職なり　天文設と云当寺大桂昌院一位公御母堂

りと云

塔中　快乗院　称名院　受用院　徳寿院　西蓮院

仁寿院　宝蓮院　假寄院　林宗院　迦葉院

徳正院　長寿院　九品院　長安院　寿性院

宗周院

○薬王山醫王寺東光院　上野末　寺院三十石　小身にて知行なるの

[illegible]山慈覺大師一品尊敬和王山門無動寺の[illegible]坊賢海院[illegible]
[illegible]寺院再興[illegible]寺[illegible]尊像[illegible]業者作太田道灌[illegible]敬
[illegible]尊像[illegible]慶長[illegible]比[illegible]尊[illegible]年[illegible]寺[illegible]江戸[illegible]
[illegible]江戸[illegible]西[illegible]
[illegible]尊[illegible]阿弥陀[illegible]業の
[illegible]像[illegible]

寺中　実花院　自性院　宝勝院　明王院
不動院　明光院　一乗院　蓮城院

○一心山捨世寺称往院　浄土宗　北寺町　[illegible]院
開山白誉上人　慶長元年起立　寺号道光庵　良秋庵
開光大仏　六時佛　月影佛　御影[illegible]
慶長[illegible]湯島[illegible]
○光明山天嶽院遍照寺　同宗　悟上寺[illegible]　同町　[illegible]
手島観世音　唐佛
縁起云大宋育王山能仁寺[illegible]像也順徳院建保年中鎌倉
鶴岡社僧良真僧都入宋の時守来る[illegible]像也其後故有
太閤秀吉公[illegible]下津田孫[illegible]つ尉勝宣此像を得息半
[illegible]元亨伊賀国[illegible]此像の

昔、俗に別当と号す武威を国中に振い世人を為政と称し
給ふ氏子外に元亨元年に建て寛永十六年当寺に移す昔
当寺馬喰町に有り明暦三年回禄の時火中より出現有り
最近に成て真作毫末の損壊なしとて
塔頭 光樹院 真松院 尊俊院 松樹院
○神田山日輪寺 時宗 相州為信次 同所 遍照寺
寺僧云開山第二世一遍上人真教坊と京近辺武州を巡り和
州草庵を建て芝浦道場を是則ち当寺也と依柳原
土手に元祖を建立也 移り四世僧侶当寺に移る
隋章記云 相州藤沢道場に一遍上人建立地を一遍光祖通

信孫別府七郎左衛門通廣子智真坊と云
或説云今の神田明神 孝元の時に当寺の上人等も法を
執り行ひ神興出たりし其時の上人実に此寺御坊
土日の連歌の連衆なりし寺の上人なり土世なり
子安観世音 北朝に安置する当寺あり
○妙祐山幸龍寺 法華宗国寺末 同所 日輪寺の
冥山正心院日幸上人
寺中 孝子院 永安院 大放院 大象坊 善月坊
常教坊 法成坊 他林坊 大輪坊 同四坊
○吃岡山智光院 禅宗 妙心寺末 寺所 寺僧寺の
ワキノ少坊

冥山

○勝光山万隆寺　同宗天永寺末　同所　知光院

冥山

○長遠山慶印寺　法花　妙満寺末　鎮九　多武　一階寺

冥山日經上人開基日忠聖人

日蓮大士像　日法聖人作

寺中　寺成坊　円無院　宗成坊　仙樹坊

○実義山九品寺　浄土宗　知恩末　山ノ宿

○阿含山円満院　真言　護持院末　寺本孔寺向

寺号弘法大師自作の像也　旧地沙弥ヶ嶽四隣寺中ニ移る

石清水八幡社　八幡宮新坊　旅所の所也

稲荷社

○妙円山正行寺　一向宗西ノ　新城郡　字円寺坊田

中興ハ冥山ノ子五世　開山應法師のよし

○灵照山專光寺　浄土　増上寺末　新城郡　字寺ノ内

冥山　稜誉上人

○普照山正定寺　同宗　同末　同所　埼光寺

冥山

○龍穂山松源寺　浄宗　大松寺末　同所　正定寺

冥山　對州　境大和尚　寛永十年創立

○江州山宝覆院清水寺　上野国
開山慈覚大師　天長年中ニ始テ創立ス　文禄年中ニ焼失ス
法師中興也　本尊千手観音　慈覚大師一刀三礼の作
塔頭　福生院　昌福院　智泉院　宝珠院
○法花山実相寺　法花池上ニ　同所清水寺ノ西ノ所
五坊院塔頭
開山本願寺十二世日慶上人
○醫王山法光寺　高野竜光寺末　三十三所巡礼跡
開山
○法泉山真浄寺　一向宗　同所
開基

○朝倉山遍立寺　同宗　同所　真竜寺
開基
○平松山入楽寺　同宗末　同所　遍立寺
開基　順教法師　寛文八年創立　元禄喰所ニ
○野兼山兼満寺　同宗　同所　遍立寺
開基
○天然山慈眼院　浄土宗　塔上寺末　計年二千六百
上宮太子ノ像四十二歳御影　自作也　宝寺　五千　沙田
迦葉ノ明磨回禄ニ重塔　庆妃ノ　此時　尼像ヲ失セリ
四位僧侶　尼人　阿弥陀如来　昔ヨリ　聞ク所ノ沙弥

島三年の松なりと終、徳琴上人池辺に立て寺像を製造
まうし寿りて立ち所なりと也 江戸砂子に出ず
鎮守 湯島天神 長福稲荷社 境内に祭る
○竜島山本覚寺 法花 本国寺末 同所 蓮眼院
開山 日仁上人
○用明山四大天王院聖徳寺 浄土寺末 同所 本興寺
上宮太子重 太子十六歳御彫御自作也 往昔寺に御堀西
堀根岸に付 聖実上人太子の像を守りて一宇を建立 堀
根岸と一宇を建立せり 後花園院享徳二年忠運
社加琴上人中興 浄土門に堀根岸より神田に移り

其後今の地に移る 江戸砂子に此史感寺なり
土中出現地花
相州一の沢本食弾琴上人作の石像也 当寺十七世位の時夢中
の告げにて地を掘りて石仏の御尊を得て御像を石工に作ら
しむる所の像也
○獅子吼山善徳寺専称院 浄土寺末 同所 東西
開山 十蓮社楽琴上人 想休和尚 享徳二年 西年 紀之
往昔同寺に住す後当寺に移る 開山 楽琴上人 明應三年七
月十日寂
○一万年山 祝言寺 禅 吉祥寺末 同所 [illegible]寺

求法記云往古御体大自然にして此山を祝言和と号ふ又用
の時一万年山祝言寺と寺号を改ふ
冥山良山存久大和尚 太田道灌建立す 又云天文二十年
記之

○厭離山宗安寺
冥山香尽大人
○正業山専修院
浄土天極寺末 同所宗安寺末
冥山開基大人 宝永元年九月十日化
○美亀山法福寺 禅宗 武隠寺末 同所 寺内院 向側
冥山沈穏和尚 西三道若し石碑あり

大磯虎ノ石塔 当寺に有り
寺伝に曰是を去の一松は美の字殿大磯より是を得られし
土井大炊頭殿より当寺へ納めし 古き五輪
を梵字三字に刻或老人説云此石に加藤虎之助清正方にて
せし石ゆへ虎ノ石と名と今掘出す清正大磯の虎の石碑を
方なり 寺に有て柳塔婆に似て 高さ拾尺
○伎楽山妙音寺 法花 蓮泉寺末 同所 寺内院 横丁
妙音天方天社 境内に有り
往古は巳大池にて当寺の向板橋にて池の内に成
今池はなくなりて 池の跡は 池の如き有と不

○栄廣山 真源寺 塔上寺末 同所 妙秀尼のナラビ
開山西蓮社慶誉上人 求然和尚
能野三社
○花園山 清光院 真言 円福寺末 同所 五條寺ナラビ
開山
扇稲荷社 当寺鎮守ノ社
○清光山 涼源寺 浄土 知恩末 同所 清光院ナラビ
開山 傳蓮社肇誉願立上人
○住心山 正法寺 浄土 駿府宝台寺末 同所 涼源寺ナラビ
開山 満誉上人

○五臺山 源空寺 文珠院 浄土 智恩末 同所 正法寺同例
開山
○赤城山 燈明寺 上野末 同所 妙中の面了西法寺塔
寺僧玄信呼善光寺の御内宮寺ゟ行基を受継ぐの寺
ゟ附属ゟ
本尊釋迦如来 赤城明神社
○白龍山 光感寺 浄土 塔上寺末 同所 妙中寺ナラビ
開山長蓮社英誉上人千山和尚
○鳳祥山 長傳院 禪 妙心寺末 同所 光感寺ナラビ
開山

○巨福山長円寺　浄土　知恩寺　同所　長徳寺
開山　南智和尚
○遍照山源光寺　同宇　天山寺末　同所　長江寺
開山　兼誉上人　慶安三年八月廿四日寂　並ヒ
○巨嶽山曹源寺　禅宗　吉祥寺末　同所　源光寺
開山　並ヒ
子聖大権現社
○大雄山海禅寺　禅宗　妙心寺末　同所　曹源寺並
江戸麻布六本木当寺ニ西将つ様ハ相馬ニ付て墓ヲ此中奥
開基豊臣秀吉　初ハ渥島ニ有明暦年中当所ニ移ル
清水寺裏丁

○恩田山常林寺　法花　池上末　寺町　下谷大通り左側
開山
○信樂山正安寺　浄土　増上寺末　同所　常林寺並
開山
○金亀山西光寺　同　百万遍末　同所　正安寺並
開山
○南昌山東岳寺　禅　大中寺末　同所　西光寺並
開山
○妙法山玉泉寺　法花　身延末　同所　東岳寺並
世尼妙門天　男孫契元尊像ハ傳教大師の御作伏見根五

家世と伝来一行不変なり貞文　貞清記王姫宮江戸御下向
時御守護と一し御随身行当寺開基の時御祈禱の御本
尊なりとぞ一位殿日栄二十一歳延宝四丙辰年八月五
日右の姫宮御逝去御法名高巌院殿月潤円真大姉と申
奉り庭田中将の息女阿古局此時と剃髪して瑞光院と号
則七高巌院殿の御位牌を当寺に置奉り御菩提を祈り奉
り天和三癸亥年七月七日臨終なり法号瑞光院乾慶
日貞と号す其墓所と伝存すと云
○廓然山大悟院満泉寺　浄土宗上寺末　同所　玉泉寺並
宥山　円蓮社天誉上人満泉和尚

○龍宝山廣大寺　浄土惣触頭末　同所　満泉寺並
宥山　道蓮社劉鉄和尚
○大雄山本藏寺　法花　妙満寺末　同所　廣大寺並
宥山　日藏上人　○地藏堂
日蓮上人一所眼鬼子母神安置
○浅草山東國寺　禅宗大中寺末　同所　本龍寺並
宥山　獨歩宗作大和尚
○壽福山宝樹院行安寺　浄土　知恩末　同所　本国寺並
宥山　信蓮社法誉長雄上人　慶長年中起立
本尊　阿弥陀如来　運慶作

寺中　經壽院　是心院　清光院
香原院　見松院　專松院

[illegible]新寺町[illegible]所[illegible]大通[illegible]隔て南北[illegible]
[illegible]石地[illegible]の寺町[illegible]法の古道まで[illegible]の[illegible]新
寺町也南の方唯念寺の通り柳稲荷のうしろ[illegible]
[illegible]新寺町[illegible]ふ新寺町の西まで柳稲荷
の後の少路也八軒寺町新町を横切て北寺町を[illegible]
[illegible]ら[illegible]新町場[illegible]切て[illegible]地へ[illegible]南方[illegible]
於[illegible]

○至心山觸光院唯念寺　宗旨一向宗　新寺町　下各通六角横町

冨山　淨因擬少僧都

塔中　林泉寺　瓔壽寺　南松寺

○壽量山妙經寺　法花宗　身延末　同所　唯念寺並

冨山　日什上人　冨開日淨上人　天文十八年九月八日歿

寺中　惠性院　喜了院

○善福山盛泰寺　同宗　妙満寺末　同所　妙經寺並

冨山二位日什上人　正保元年泰寺町[illegible]寺町[illegible]移る

寺中　春朝坊　近年坊

○安立山長遠寺　泥上末　同所　盛泰寺並

冨山

○大光山善立寺 法花身延末 船臥 同所 行安寺並
同山壽仙院日德上人 三叶善立寺ヶ日德上人当寺建立也
陸奥鬼ヶ毋神 日得上人作

寺中 千心院 真妙坊 本壽坊 惠旅坊
法性坊 泉陽院 妙静坊 円壽坊
壽仙坊 善行坊

○勸明山法養寺 法花 池上弘通所 同所 善立寺裏ヶ也
同山池上十二世日惺上人 往古神田三町ヶ所 当長寺中古所ヶ
移ヶ 鎌倉安ヶ 勸請稲荷当寺ヶ所

寺中 実相坊 養泉坊

○長昌山經王寺 同宗 同末 同所 唯念寺同例
同是身延山十一世日朝上人 同山 經信院日說上人

○法乘山蓮妙寺 同 同所 經王寺並
同山妙蓮院日秀上人 大黒天安置 修殿大仏作

○惠力山地花院 真言 漢村院末 同所 蓮妙寺末
同山蓮祐法京 愛染堂安置

○易往山不遠院 浄土 浄土寺末 同所 歓喜院陣
同山方答上人 本尊阿弥陀 惠心作

○南明山観音院聚福寺 天台 東光院末 同所 善立寺枝ヶ
同山 七観音内五番目 脇 歓喜天

入船稲荷社

○荘厳山 浄土院清憲寺 増上寺末 同所 地蔵院僧

開山心誉善覚上人 慶長十六年癸亥 起立

地蔵尊 寺阿弥作

寺付云 往古川崎駅善養寺ニ有 元文五申年夢想

ニ依て当寺ニ安置 其時成就の時 甘酒

を供ス故ニ俗ニ甘酒地蔵ト云ハ

○妙栄山 法泉寺 法花池上末 同所 清徳寺隠

開山妙泉院日雄上人 昆沙門天 仏教大師作 安置

○摩尼山吉祥院金隆寺 真言 同所 七福神ノ一 善光寺次ノ下

開山

○十輪山栄蔵寺 天台 東光院末 同所 吉祥院五

開山堅者法下良慶 七福寺下

経誦地蔵 縁起云 当寺地蔵尊ハ中興尊上人ニ礼ス刻

ル古仏 都沙弥ニ与ル 沿革ノ 此寺同院ニ三番ニ

人ハ上ル 初ハ地蔵尊ニ 八十二百

ハ経ヲ誦ス 地蔵尊ハ経ヲ誦ス

迷ハ 一日ニ百日ニ 沙弥ニ 帰ル道

ニ銭一ツ ヒロヒ 栄ヘ 青銭多人 ノ

宝ハ ミチル 世ノ人 地蔵ト云 慶永氏 当寺ノ住

持恵聖人都への行き灵夢を蒙り地蔵尊を安置
江戸人時の事歟
○凝龍山等覚寺　一向宗　東夷　同所　栄花寺末
七拝寺
開基
○猿取山遍照院　知恩寺　同所　等覚寺向
七拝寺
開山　鐘念光明寺二代洞誉上人　鐘念光明寺末寺也
子安観音　行基作　江戸札所十五番　延宝度稲荷
寺中　松声院　壽乗院　貞安院
○隨龍山誓願寺　知恩寺　同所　光明寺
七拝寺
開山　誓蓮社船誉上人　昼間和尚

○法慶山善慶寺　法花　同所　浅草寺末
七拝寺
開山　善社院日泉上人　寛永十八年三月廿七日化
○星頂山妙福寺　同　身延末　觸所　同所　善慶寺末
七拝寺
開山　持法院日慈上人　寛永六年七月廿七日化
鎮守　稲荷天社
○勝軍山蓮花寺　密花院　真言　御室末　同所　妙福寺末
開山
○廣博山観花院隆保寺　高野自性院末　古義　同所　密花院末
不動　愛染　昆沙門天　弘法大師作
○頂光山蓮光寺　法花　身延末　同所　妙福寺向
樣所

「弁山」日慈上人　寺中　了泉坊

○金光山矢野了源寺　塔上寺末　同所　教義院
　　横丁

　寺中　就光院　傳相院

「弁山」念蓮社　嘉元雄和尚　慶長三戊寅年　往古田所所ニ
　　行ヒ元亨年中矢の宮社へ移り又正保元甲申年今所へ移る

　寺宇　阿弥陀　薬師大仏作

　唐鐘　真和尚作来　釋迦　弟子の舎利　弥陀宝号
　　善導大仏師　舎利附の球数ハ当寺にあり

○青柳山就福院　真言　護持院末　同所　了誉上人の開

「弁山」

○光沢山満志院称念寺　高田一向宗　同所　光源院
　　「弁」是正得推伝都

　塔中　観音寺　弥信寺　最尊寺　覚音寺

　寺行寺

○玉龍山延命院　真言　護持院末　同所　教善上人
　　水晶輪年天
　　略縁起云天長五年弘法大仏江州竹生島ニ寄ル一艇の弓
　　像を彫刻ス一作竹生島の本尊ニ一躰を則ちこの天
　　像也又安年中讃岐国琴弾山ニ移り当院の「弁」山義勧
　　法仏へ寄ル　ニ換ル　ニ　武氏国矢ノ社浦ヘ一宇を

建立して安置せり四度三年の火災に加へて堂塔今の消亡
許なり　福寺と云
○伍鈷山　大乗院　真言　護持院末　同所　延命院兼
宇山　増誉法中
○光明山万福院　同宗　同所　大乗院兼
宇山
○神藤山成就院　同　弥勒寺末　同所　万福寺向側
宇山　乗誉法中　寛永比迄之元天の誉の時万治の比皆
所へ移
○実妙山　法養寺　法花　満寺末　同所　成就院兼

宇山　日付　大上人　明應三年十二月廿八日化
一言地花字　万法寺中より　当寺兼
○望月山正福院　真言　護持院末　同所　新谷向古例
宇基　行基作
柳稲荷社　別当望月山般若寺正福院
酒像　堂宮社　ことと涙叩　福叩　辺の長望月貞久と夫
駿の告げ　洛陽稲荷山の孫神　ちより　れ一顆の玉を弘法
大師の作の観音の像を無て　叩　て　加　を
詠て　ば　則ち涙叩　社を建て　崇敬　年
を又貞久夢中の告　また当寺の楊柳　ところ　迄言

寺[illegible]世[illegible]柳の稱[illegible]と稱[illegible]

○真立山正覺寺　法花　池上末　同所[illegible]の末寺

開基行蓮院日要大[illegible]寺中　記[illegible]

身丈七面社安[illegible]

○妙眼山本立寺　法花　遠州妙立寺末　四月[illegible]

開山日竹上人　寺中　慈性院　鏡像院

追加

○莊嚴山專念寺　浄土　弘行寺末　新寺

○原立山妙高寺　法花　誕生寺末　寺町

○遍照山金剛院　真言　高野末　慈性院　寺町　[illegible]

新編江戸志巻之二下終